

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（理系）
使用教科書	桐原書店『論理国語』				
副教材等	浜島書店『常用国語便覧』、尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。</p> <p>② 文章を的確に理解した上で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。</p> <p>③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
---------------------------	--	---

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	〈知〉のコミュニティへ	4 「A読む こと」	村田沙耶香「気持ちよさという罪」	筆者の思いを理解し、それを生徒自身が自分にも通ずることとして考え、他者と関わる中で生かすことを考える。	6	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	評論Ⅰ ① 要旨の把握 ② 解釈の進化	2 「A読む こと」	鷺田清一「いのちは誰のものか」	筆者の考えを正確に理解し、自分の体験などをもとに、解釈を深める。	3	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 6	評論Ⅱ ・ ① 要旨の把握 ② 多様な観点 「書く」―問いを生む	4 「A読む こと」 7 「B書く こと」	大庭 健「動物の信号と人間の言語」 宇野常寛「世界の見え方を変える」	言語の特質を的確に把握する。動物の信号と人間の言語の違いを、比較対照して具体的に検証する。 「書く」ことを起点にして「読む」ことを鍛え、それを「書く」ことに還元していくことを目指す。	6 7	ノート（記述の点検） ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 課題提出（記述の点検） 意見文（記述の確認）
	評論Ⅲ ① 論拠の検討 ② 多様な観点	4 「A読む こと」	藤原新也「イスラム感覚」	日本人の規範についての筆者の考えを根拠に、本文を解釈し、自分の考えを深める。	4	ノート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	
7 8	評論Ⅳ（1） ・ ① 根拠の用意 ② 論拠の吟味	9「B書く こと」	岡田暁生「芸術も科学も『別世界』を見せる」	最先端の科学技術についてのニュースを新聞やインターネットを用いて収集し、興味を持った内容をレポートにまとめる。	9	レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	評論Ⅳ（2） ① 論拠の検討 ② 情報との関連	2「A読む こと」	黒崎政男「ロボットは心を持つか」	「ロボットには心はない！」という筆者の考えや、「そもそも心とは何か」で述べられている筆者の考えを参考にして、心とは何か、ということを考える。	4	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）

	境界をこえて	2「A読むこと」	松村圭一郎「器としての『わたしたち』」	集団と集団の境界について考える。「わたし」の存在について考える。「家族」のあり方を学ぶ。他者とのつながりについて考える。	4	レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 ・ 11	論文を読む	8「A読むこと」	宮原浩二郎「変身に伴う快楽と恐れ」	段落構成をまとめる。変身の本質を考える。変身の恐怖を考える。変身についての筆者の考えをまとめる。	8	ノート（記述の確認） レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
	実用的な文章	2「B書くこと」	通信文を書く	各自が作成した通信文を比較し、相手に考えや必要な情報がつたわっているかについて意見交換したうえで、自らの文章を見直す。	2	発表の様子（行動の確認） 通信文（記述の分析）
	評論v ① 要旨の把握 ② 多様な観点	4「A読むこと」	山極寿一「暴力はどこからきたか」	内容を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。文章の解釈を現実のニュースと結びつけ、新たな観点から自分の考えを深める。	8	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	実用的な文章	2「B書くこと」	観光地紹介を書く	伝えたい内容やターゲットに沿って紹介文の構成を考え、盛り込む情報の取捨選択をする。	2	発表の確認（行動の確認） 紹介文（記述の分析）
	評論v ① 要旨の把握 ② 多様な観点	8「A読むこと」	丸山真男「であることとすること」	自分が将来就きたい職業や研究をしたい学問分野を挙げ、そこに見られる「である」価値と「する」価値の関係性や倒錯について考えたうえで、発表する。	10	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	論文を読む	10「A読むこと」	山崎正和「淋しい人間」	時代背景を読み解く。「家」の本質をつかむ。「自由」について考える。「淋しさ」の本質をつかむ。	10	ノート（記述の確認） レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
2	学年末考査				1	
2 ・ 3	実社会との接点	8「B書くこと」	三宅陽一郎「キャラクターの身体、自動車の身体」	本文の内容を踏まえて、自動運転車が実現した社会を想像し、その利点と課題を八百字程度にまとめる。	8	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）

計 96 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A読むこと 63 時間	B書くこと 28 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代の変わりゆく社会を生きていくには他者との協働が不可欠です。それには他者の主張や考えを的確に理解し、さらに自らの主張や考えも相手に正確に伝える必要があります。論理的に書いたり批判的に読むことで言葉を使う能力を向上させましょう。

(担当：勝海・柳澤)

教科(科目)	国語（論理国語）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（理系）
使用教科書	桐原書店『論理国語』				
副教材等	浜島書店『常用国語便覧』、尚文出版『常用漢字ダブルクリア』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>④ 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。</p> <p>⑤ 文章を的確に理解した上で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。</p> <p>⑥ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
---------------------------	--	---

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	〈知〉のコミュニティへ	4 「A読むこと」	村田沙耶香「気持ちよさという罪」	筆者の思いを理解し、それを生徒自身が自分にも通ずることとして考え、他者と関わる中で生かすことを考える。	5	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	評論Ⅰ ③ 要旨の把握 ④ 解釈の進化	2 「A読むこと」	鷺田清一「いのちは誰のものか」	筆者の考えを正確に理解し、自分の体験などをもとに、解釈を深める。	2	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 6	評論Ⅱ ③ 要旨の把握 ④ 多様な観点	4 「A読むこと」	大庭 健「動物の信号と人間の言語」	言語の特質を的確に把握する。動物の信号と人間の言語の違いを、比較対照して具体的に検証する。	5	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
	「書く」一問いを生む	3 「B書くこと」	宇野常寛「世界の見え方を変える」	「書く」ことを起点にして「説く」ことを鍛え、それを「書く」ことに還元していくことを目指す。	3	課題提出（記述の点検） 意見文（記述の確認）
	評論Ⅲ ③ 論拠の検討 ④ 多様な観点	4 「A読むこと」	藤原新也「イスラム感覚」	日本人の規範についての筆者の考えを根拠に、本文を解釈し、自分の考えを深める。	4	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	
7 8	評論Ⅳ（Ⅰ） ③ 根拠の用意 ④ 論拠の吟味	4「B書くこと」	岡田暁生「芸術も科学も『別世界』を見せる」	最先端の科学技術についてのニュースを新聞やインターネットを用いて収集し、興味を持った内容をレポートにまとめる。	4	レポート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
9	評論Ⅳ（Ⅱ） ③ 論拠の検討 ④ 情報との関連	2「A読むこと」	黒崎政男「ロボットは心を持つか」	「ロボットには心はない！」という筆者の考えや、「そもそも心とは何か」で述べられている筆者の考えを参考にして、心とは何か、ということを考える。	3	定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）

	境界をこえて	2「A読むこと」	松村圭一郎「器としての『わたしたち』」	集団と集団の境界について考える。「わたし」の存在について考える。「家族」のあり方を学ぶ。他者とのつながりについて考える。	3	レポート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 ・ 11	論文を読む	6「A読むこと」	宮原浩二郎「変身に伴う快樂と恐れ」	段落構成をまとめる。変身の本質を考える。変身の恐怖を考える。変身についての筆者の考えをまとめる。	6	レポート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
	実用的な文章	2「B書くこと」	通信文を書く	各自が作成した通信文を比較し、相手に考えや必要な情報がつたわっているかについて意見交換したうえで、自らの文章を見直す。	2	発表の様子（行動の確認） 通信文（記述の分析）
	評論v ③ 要旨の把握 ④ 多様な観点	3「A読むこと」	山極寿一「暴力はどこからきたか」	内容ヲ的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。文章の解釈を現実のニュースと結びつけ、新たな観点から自分の考えを深める。	6	ワークシート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 ・ 1 ・ 2	実用的な文章	2「B書くこと」	観光地紹介を書く	伝えたい内容やターゲットに沿って紹介文の構成を考え、盛り込む情報の取捨選択をする。	2	発表の確認（行動の確認） 紹介文（記述の分析）
	評論v ② 要旨の把握 ② 多様な観点	4「A読むこと」	丸山真男「であることとすること」	自分が将来就きたい職業や研究をしたい学問分野を挙げ、そこに見られる「である」価値と「する」価値の関係性や倒錯について考えたうえで、発表する。	6	ワークシートノート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
	論文を読む	2「A読むこと」	山崎正和「淋しい人間」	時代背景を読み解く。「家」の本質をつかむ。「自由」について考える。「淋しさ」の本質をつかむ。	2	レポート（記述の点検）
2	学年末考査				1	
2 ・ 3	実社会との接点	6「B書くこと」	三宅陽一郎「キャラクターの身体、自動車の身体」	本文の内容を踏まえて、自動運転車が実現した社会を想像し、その利点と課題を八百字程度にまとめる。	6	課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A読むこと 42 時間	B書くこと 17 時間
-----------------	----------------	----------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

現代の変わりゆく社会を生きていくには他者との協働が不可欠です。そこには他者の主張や考えを的確に理解し、さらに自らの主張や考えも相手に正確に伝える必要があります。論理的に書いたり批判的に読むことで言葉を使う能力を向上させましょう。

(担当：勝海・柳澤)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年（文系）
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。</p> <p>② 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。</p> <p>③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。</p>	<p>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>
--	---	--

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	説話 用言の復習 説話の概要理解	5 「A 読むこと」	『宇治拾遺物語』 「歌詠みて罪を許さること」	大隅守が郡司を許すために歌を詠ませことの意味について考え、歌の持つ力および歌徳説話について考える。	5	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	故事・寓話 疑問形・反語形などの表現に注意した内容理解	4 「A 読むこと」	『春秋左氏伝』 「病入膏肓」	正しく訓読し、登場人物を整理する。語句や句形を確認し、全体の内容を理解する。故事成語の意味を確認する。	4	ノート(記述の点検) 定期考査(内容分析) 発表の様子(行動の確認)
5	中間考査				1	
5 6	物語 ・文学史の理解 読み比べ	7 「A 読むこと」	『大和物語』 「嫉捨」	歌物語を理解する。登場人物の心理・性格を理解しながら、ストーリーを理解する。物語の内容を踏まえたうえで、その後の展開を考える。『俊賴朝聞』『更級日記』との比較で深める。	7	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
	日記 語の識別 現代との比較	5 「A 読むこと」	『更級日記』 「門出」	平安時代の日記文学の概要を知る。全文を把握し、作者の物語への思いを理解する。現代における日記と、どのような点で違いがあるか、考える。	5	ノート(記述の点検) 課題提出(記述の確認)
	文章 重要句形と構文 理想的な社会について考える	5 「A 読むこと」	『陶淵明集』「桃花源記」	桃源郷がどのような理由で作られていったのかを理解する。この作品の構成と陶潜の創作意図について考える。	5	ノート(記述の点検) 発表の様子(行動の確認) 定期考査(内容分析)
6	期末考査				1	

7 8	随筆 ・ 敬語の学習 文学史の理解	5 「A 読む こと」	『枕草子』 「中納言参り給 ひて」	会話部分が誰の言葉であるかを確認する。隆家と作 者の会話から、二人の人物関係について理解する。敬 語の種類と敬意の方向について確認する。末尾の記 述に表れている作者の心情を読み取る。	5	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	歴史 敬語の学習 文学史の理解	4 「A 読む こと」	『大鏡』「道長と 伊周の競射」	歴史物語について、概要を理解する。戯曲的な構成を とることで読者が歴史的世界に引き込まれるように 描かれており、「紀伝体」をとることで人物像が浮き 彫りにされていることを理解する。	4	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	8 「A 読む こと」	『史記』 「市公、項王に見 ゆ」	修辭法として重要な比喻表現がどのような仕掛けに よって、いかなる効果を上げているのかを理解する。 漢文訓読の技術の習得と文構造への理解、脚注の力 を借りながら、大きなストーリーはもとより、表現の 細かいニュアンスまで読み味わうようにする。	8	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 11	物語 ・ 敬語の学習 文学史の理解	7 「A 読む こと」	『源氏物語』 「光源氏の誕生」	『源氏物語』の文学史上の位置を、既習の作品と比較 して理解する。『源氏物語』の中で冒頭部分の持つ意 味を理解する。敬語に留意して理解を深める。	7	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	3 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	音読を繰り返し、正しく訓読する。「四面楚歌」の具 体的な内容を把握する。項王の詩を読み、詩句に込め られた項王の思いを想像する。	3	ノート（記述の点検） 定期考査（内容分析）
	物語 敬語の学習 和歌の理解	8 「A 読む こと」	『源氏物語』 「若紫との出会 い」	後に紫上と呼ばれ、物語の中心的立場を占める人物 の登場場面を確実に捉える。語句・語法・敬語に関す る知識を深め、文章を正しく理解する。	8	ノート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 1 2	和歌 ・ 修辞 韻文作品の理解	6 「A 読む こと」	和歌 春秋 恋 離 別・旅・哀傷	当時の季節の捉え方、恋愛の形態や恋への思い、今日 とは異なる旅への思いなど、現在の生活と結びつけ ながら、古典和歌の世界をレポートにまとめる。	6	レポート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認）
	思想 重要句形と構文 儒家の思想学習	8 「A 読む こと」	『論語』	孔子や『論語』について、また諸子百家における孔子 の位置について確認する。孔子が弟子の特徴を見抜 いて君子について語る内容をそれぞれ変えていたこ とを理解し、今に生きる英知を捉える。	8	ノート（記述の確認） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	軍記 文学史の理解 敬語の学習 読み比べ	8 「A 読む こと」	『平家物語』 「宇治川の先陣」 小林秀雄 「平家物語」	軍記物語に特有の表現上の特徴に注意して、東国武 士がどのように描かれているかを的確に捉える。 小林秀雄独特の「平家物語」観への理解を深める。筆 者の視点を踏まえて「宇治川の先陣」を音読すること で、「古典」としての「平家物語」の価値を実感する。	8	ノート（記述の確認） 定期考査（内容分析）
2	学年末考査				1	

2 ・ 3	日本漢文 ・ 日本漢文の生気に あふれた表現を味 わう。	8 「A 読む こと」	頼山陽 「川中島の戦い」	「川中島の戦い」とはどのようなものであったかを 理解する。範読の後に斉読し、何度も音読を繰り返 す。合戦の展開と人や物の動きに注目して、緊迫感を 醸成している理由を理解する。	8	ノート（記述の確認） 課題提出（記述の分析）
-------------	--	-------------------	-----------------	--	---	---------------------------

計 96 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A 「読むこと」 91 時間
-----------------	-------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

私たちの国の文化や伝統と強く結びつき、教養として積み重ねられた古典の価値を再認識し、古典に親しみながら
自己のもの見方、感じ方、考え方を深め、向上させましょう。先人の知識に目を向けて見ませんか。私たちの未
来はその先に広がっています。

(担当：勝海・山田)

教科(科目)	国語（古典探究）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（理系）
使用教科書	桐原書店『探求 古典探究古文編』『探求 古典探究漢文編』				
副教材等	数研出版『体系古典文法』、尚文出版『精選漢文』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の理解と確実な習得を目指します。</p> <p>② 古典などの理解を深める中で、広い視野で自分の考え方を確立させることを目指します。</p> <p>③ さらにそれらを的確に表現し、柔軟に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。</p>	<p>・論理的に考える力を深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p>	<p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>
--	---	--

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・漢字テストなどの確認テストの分析 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 <p>などから、評価します。</p>
<p>内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	説話 用言の復習 説話の概要理解	4 「A 読むこと」	『宇治拾遺物語』 「歌詠みて罪を許さること」	大隅守が郡司を許すために歌を詠ませことの意味について考え、歌の持つ力および歌徳説話について考える。	4	ワークシート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	故事・寓話 疑問形・反語形などの表現に注意した内容理解	3 「A 読むこと」	『春秋左氏伝』 「病入膏肓」	正しく訓読し、登場人物を整理する。語句や句形を確認し、全体の内容を理解する。故事成語の意味を確認する。	3	ワークシート（記述の点検） 定期考査（内容分析） 発表の様子（行動の確認）
5	中間考査				1	
5 6	物語 ・文学史の理解 読み比べ	4 「A 読むこと」	『大和物語』 「嫉捨」	歌物語を理解する。登場人物の心理・性格を理解しながら、ストーリーを理解する。物語の内容を踏まえたうえで、その後の展開を考える。『俊賴朝函』『更級日記』との比較で深める。	4	ワークシート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	日記 語の識別 現代との比較	4 「A 読むこと」	『更級日記』 「門出」	平安時代の日記文学の概要を知る。全文を把握し、作者の物語への思いを理解する。現代における日記と、どのような点で違っているか、考える。	4	ワークシート（記述の点検） 課題提出（記述の確認）
	文章 重要句形と構文 理想的な社会について考える	4 「A 読むこと」	『陶淵明集』「桃花源記」	桃源郷がどのような理由で作られていったのかを理解する。この作品の構成と陶潜の創作意図について考える。	4	ワークシート（記述の点検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
6	期末考査				1	

7 8	随筆 ・ 敬語の学習 文学史の理解	4 「A 読む こと」	『枕草子』 「中納言参り給 ひて」	会話部分が誰の言葉であるかを確認する。隆家と作 者の会話から、二人の人物関係について理解する。敬 語の種類と敬意の方向について確認する。末尾の記 述に表れている作者の心情を読み取る。	4	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	歴史 敬語の学習 文学史の理解	3 「A 読む こと」	『大鏡』「道長と 伊周の競射」	歴史物語について、概要を理解する。戯曲的な構成を とることで読者が歴史的世界に引き込まれるように 描かれており、「紀伝体」をとることで人物像が浮き 彫りにされていることを理解する。	3	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	3 「A 読む こと」	『史記』 「市公、項王に見 ゆ」	修辞法として重要な比喩表現がどのような仕掛けに よって、いかなる効果を上げているのかを理解する。 漢文訓読の技術の習得と文構造への理解、脚注の力 を借りながら、大きなストーリーはもとより、表現の 細やかなニュアンスまで読み味わうようにする。	3	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
9	中間考査				1	
10 11	物語 ・ 敬語の学習 文学史の理解	6 「A 読む こと」	『源氏物語』 「光源氏の誕生」	『源氏物語』の文学史上の位置を、既習の作品と比較 して理解する。『源氏物語』の中で冒頭部分の持つ意 味を理解する。敬語に留意して理解を深める。	6	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
	史伝 重要句形と構文 中国の史伝の理解	2 「A 読む こと」	『史記』 「四面楚歌」	音読を繰り返し、正しく訓読する。「四面楚歌」の具 体的な内容を把握する。項王の詩を読み、詩句に込め られた項王の思いを想像する。	2	ワークシート（記述の点 検） 定期考査（内容分析）
	物語 敬語の学習 和歌の理解	6 「A 読む こと」	『源氏物語』 「若紫との出会 い」	後に紫上と呼ばれ、物語の中心的立場を占める人物 の登場場面を確実に捉える。語句・語法・敬語に関す る知識を深め、文章を正しく理解する。	6	ワークシート（記述の点 検） 発表の様子（行動の確認） 定期考査（内容分析）
11	期末考査				1	
12 1 2	和歌 ・ 修辞 韻文作品の理解	3 「A 読む こと」	和歌 春秋 恋 離 別・旅・哀傷	当時の季節の捉え方、恋愛の形態や恋への思い、今日 とは異なる旅への思いなど、現在の生活と結びつけ ながら、古典和歌の世界をレポートにまとめる。	3	レポート（記述の確認）
	思想 重要句形と構文 儒家の思想学習	3 「A 読む こと」	『論語』	孔子や『論語』について、また諸子百家における孔子 の位置について確認する。孔子が弟子の特徴を見抜 いて君子について語る内容をそれぞれ変えていたこ とを理解し、今に生きる英知を捉える。	3	ワークシート（記述の確 認） 定期考査（内容分析）
	軍記 文学史の理解 敬語の学習 読み比べ	4 「A 読む こと」	『平家物語』 「宇治川の先陣」 小林秀雄 「平家物語」	軍記物語に特有の表現上の特徴に注意して、東国武 士がどのように描かれているかの確認を捉える。 小林秀雄独特の「平家物語」観への理解を深める。筆 者の視点を踏まえて「宇治川の先陣」を音読すること で、「古典」としての「平家物語」の価値を実感する。	4	ワークシート（記述の確 認） 定期考査（内容分析）
2	学年末考査				1	
2 3	日本漢文 ・ 日本漢文の生気に あふれた表現を味 わう。	6 「A 読む こと」	頼山陽 「川中島の戦い」	「川中島の戦い」とはどのようなものであったかを 理解する。範読の後に斉読し、何度も音読を繰り返 す。合戦の展開と人や物の動きに注目して、緊迫感を 醸成している理由を理解する。	6	発表の様子（行動の確認） 課題提出（記述の分析）

計 64 時間 (55 分授業)

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 59 時間
-----------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎月の確認テスト範囲は別途指示します。
- ・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

私たちの国の文化や伝統と強く結びつき、教養として積み重ねられた古典の価値を再認識し、古典に親しみながら自己のものの見方、感じ方、考え方を深め、向上させましょう。先人の知識に目を向けて見ませんか。私たちの未来はその先に広がっています。

(担当：勝海・山田)

教科(科目)	地理歴史 (地理探究)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年文系
使用教科書	帝国書院 新詳 地理探究				
副教材等	新詳 地理資料 2024				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ① 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ② 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
- ③ 進路実現に向けて、大学進学に対応できる知識・技能・思考力・読解力を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識>世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解している。</p> <p><技能>「地理総合」で習得した地理的な技能を、「地理探究」で学ぶ内容に即して、さらに実践的な技能を身に付けている。</p>	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養うことができる。</p>	<p>地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 ・発言や発表の内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子の観察 ・ワークシートの確認 ・発言や発表の様子の観察 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	1 地形	5	地形の成因 大地形 小地形	<ul style="list-style-type: none"> ・地形に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・地形に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
5	2 気候	5	気候の成り立ち 気候と生態系 世界の気候区分 気候変動と異常気象	<ul style="list-style-type: none"> ・気候に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・気候に関わる諸事象について、場所の特徴や自然的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
6	3 農林水産業	7	農業の発達と分布 農業の地域区分 林業 水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・農林水産業に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
7	4 エネルギー・ 鉱産資源 5 工業	7	エネルギー資源の種類と利用 化石燃料の分布と利用 電力の利用 鉱山資源の種類と利用 工業の発達と種類 工業の立地 世界の工業地域 現代世界の工業の現状と課題 工業の知識産業化	<ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・資源・エネルギーに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・資源・エネルギーについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 ・工業に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性について理解する。 ・工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート

8 9	6 交通・通信	4	世界を結ぶ交通 情報通信の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
	7 観光		余暇の拡大と観光産業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・観光などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 		
	8 人口		世界の人口 人口の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・人口に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 		
	9 人口問題		世界の人口問題 日本の人口問題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 		
10.	10 村落と都市	14	村落の形態と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・村落などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解する。 ・都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・村落・都市について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
	11 都市・居住問題		都市の成立と形態・機能 都市圏の拡大と都市の構造 発展途上国の都市・居住問題 先進国の都市・居住問題			
	12 衣食住		世界の衣服と食生活			
	13 民族・宗教と民族問題		世界の住居と衣食住の画一化			
	14 国家の領域と領土問題		世界の民族・言語 世界の宗教 さまざまな民族問題			

11	15	中国	16	中国の工業化と海外進出	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
	16	韓国		韓国の歴史と生活文化			
	17	ASEAN 諸国		ASEAN 諸国の工業とその発展			
	18	インド		急速な経済成長を支えた産業の発展			
	19	西アジアと中央アジア		イスラームと人々の生活文化			
20	北アフリカとサハラ以南アフリカ	歴史的な背景によって形成された多様な文化					
12	21	EU 諸国	6	EU の成り立ちと結びつき	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解する。 ・いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解する。 ・現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
	22	ロシア		体制変化が産業にもたらした影響と課題			
	23	アメリカ合衆国		世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国			
	24	ラテンアメリカ		ヨーロッパの影響が強い社会			
	25	オーストラリアとニュージーランド		移民の歴史と多文化社会			
1	26	将来の国土の在り方	16	日本の強みと地理的な課題 課題の把握 課題の追究 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
2 3	27	持続可能な日本の国土像の探究	16	日本の強みと地理的な課題 課題の把握 課題の追究 課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解する。 ・現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現する。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとする。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート発表

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出（別途指示）。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

現代世界の系統地理的考察では世界の諸事象の規則性、傾向性を理解します。現代世界の地誌的考察では、世界の諸地域の構造や変容などを理解します。また、現代世界におけるこれからの日本の国土像では、現代日本に求められる国土像の在り方について構想します。地理情報システム（GIS）で2枚の地図を重ね合わせて地理的事象の分布の傾向性や規則性を理解したり、地域間の相互関連性などを理解しながら地理的な見方・考え方を習得します。そして、地理的な見方・考え方を活用し、地域の課題を考察し課題解決に向け構想します。地理では世界の構造を捉えていくことを心掛けましょう。世界の構造を把握すると未知の地理的事象（行ったことのない知らない土地で行われていること）を類推することが可能になります。世界という空間の構成を捉え、グローバルに活躍できる力を身につけることを目指します。

教科(科目)	地理歴史（日本史探究）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年文系
使用教科書	山川出版『詳説日本史』				
副教材等	浜島書店『新詳日本史』 浜島書店『ゼミナール日本史』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3 指導の重点

- ① 日本の歴史の展開について、時間軸の中での連続性や、地域と日本、世界の空間的な認識、政治や経済、社会、文化、国際環境など各時代の特色及びその変遷など様々な側面から、日本の歴史を大きく捉えることができるようにする。
- ② 多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握するとともに、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
- ③ 日本の歴史事象について、自分の考えを論理的に説明・論述したり、考察・構想したことを議論する力を涵養する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉我が国の歴史の展開に関する諸事について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。</p> <p>〈技能〉諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それら</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。</p>

	を基に議論したりする力を身に付けている。	
--	----------------------	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査・小テストの分析 ・資料の読み取りをとおしての表現の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査・小テストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、感想文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1 日本文化のあけぼの	5	文化の始まり 農耕社会の成立	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを中心に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成及び原始社会の特色を理解する。 ・原始古代の特色を示す適切な歴史資料を使い、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
5	2 古墳とヤマト政権	5	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	・国家の形成と古墳文化を中心に、律令国家成立以前の政治・社会・文化を理解する。 ・中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合・古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義・関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 ト
6	3 律令国家の形成	7	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容	・律令体制の成立過程と諸文化の形成などを中心に、古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動

7	4 貴族政治の展開	7	貴族政治 国風文化 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> ・貴族政治の展開・文化・地方支配の変化や武の出現などを中心に、律令体制の再編と変容及び古代の社会と文化の変容を理解する。 ・地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義及び関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート
8 9	5 院政と武士の躍進	4	院政の始まり 院政と平氏政権	<ul style="list-style-type: none"> ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の展開を理解する。 ・歴史資料の特性を踏まえ、資料を通じて読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する活動に主体的に取り組む。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
10	6 武家政権の成立	14	鎌倉幕府の成立 武士の社会 モンゴル来襲と幕府の衰退 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを中心に、武家政権の伸張及び社会や文化の特色を理解する。 ・公武関係の変化や宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
11	7 武家社会の成長	16	室町幕府の成立 幕府の衰退と民衆の台頭 室町文化 戦国大名の登場	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを中心に、地方権力の成長、社会の変容及び文化の特色を理解する。 ・社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	a b c	小テスト ワークシート グループ活動

12	8 近世の幕開け	6	織豊政権 桃山文化	・織豊政権の政治・経済政策, 貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料を中心に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査
1	9 幕藩体制の成立と展開	16	幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化	・法や制度による支配秩序の形成と身分制及び貿易の統制と対外関係などを基に、幕藩体制の確立の特色を理解する。 ・支配秩序の形成と身分制・技術の向上と開発の進展、産業の発達、学問・文化の発展を中心に、近世の社会・文化の特色を理解する。 ・交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動
2 3	10 幕藩体制の動揺	16	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	・飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを中心に、幕藩体制の変容や近世の庶民の生活と文化の特色及び近代化の基盤の形成を理解する。 ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化の関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	a b c	小テスト ワークシート グループ活動 定期考査 レポート発表

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・小单元ごとに小テストを実施する。
- ・大单元ごとに定期考査を実施する。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出する。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

日本史は教科書が厚く、学ぶべき事項が多岐に渡る。ある程度の歴史事項の暗記を避けて通ることはできないが、歴史の流れを理解するとともに、過去の出来事が現在とも関連していることを理解し、世界の中における日本の存在を認識して欲しい。(担当：相澤)

教科(科目)	公民 (公共)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版『詳述公共』				
副教材等	浜島書店『最新図説 公共』、実教出版『詳述公共演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、構想したことを議論する力を養う。
- (3) 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民としての自覚などを深める。

3 指導の重点

進学・就職に関わらず公民として必要な力を養うため

- ①基本的な用語や概念、理論についての理解を目指します。
諸資料から選択・判断に必要な情報を調べまとめる技能を身に付けることを目指します。
- ②学んだ概念や理論を活用して自分の考えを確立し、その上で他者と議論して、より深く考察してそれを的確に表現する力を育みます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての自覚を深めようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・準拠演習ノートやワークシートの確認 ・発言や発表の内容の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・活動の様子の観察 ・ワークシートとの確認 ・発言や発表の様子の観察 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1 社会を作る私たち	青年期と自己形成の課題 職業生活と社会参加 現代社会と現代の生き方	・ワークシートで自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について考える。	4	ワークシート 小テスト 発表の様子
5	2 人間としてよく生きる	ギリシアの思想、宗教の教え 人間の尊重 自由と尊厳 個人と社会	・行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。	7	ワークシート 小テスト 発表の様子
6	3 社会とは何か	人間の尊厳と平等 自由・権利と責任・義務	・思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	2	ワークシート 小テスト 発表の様子
	4 民主国家における基本原理	人権保障の発展と民主政治の成立 国民主権と民主政治の発展	・公共的な空間における基本的原理について考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。	3	準拠ノート 定期考査 発表の様子
7	5 日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立 平和主義とわが国の安全 基本的人権の保障 人権の広がり	・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて協働して考察したことを、論拠をもって表現する。	8	準拠ノート 小テスト 発表の様子
8 9	6 日本の政治機構と政治参加	政治機構と国民生活 人権保障と裁判所 地方自治 選挙と政党 政治参加と世論	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめる技能を身に付ける。	8	ワークシート 定期考査 発表の様子

10	7 現代の経済社会	経済社会の形成と変容 市場のしくみ 現代の企業 経済成長と景気変動 金融の働き 財政の役割	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重について考察する。	8	準拠ノート 小テスト 発表の様子
11	8 経済活動のあり方と国民福祉	日本経済の歩み 中小企業と農業 公害防止と環境保全 消費者問題 労働問題と雇用 社会保障	・多様な契約及び消費者の権利と責任、雇用と労働問題、社会会保障の充実などに関わる課題を基に、活発な経済活動と個人の尊重について考察する。	8	ワークシート 定期考査 発表の様子
12	9 国際政治の動向と課題	国家安全保障と国際連合 冷戦終結後の国際政治 異なる人種・民族との共存 国際平和と日本	・国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割など諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめる。	6	ワークシート 小テスト 発表の様子
1 2	10 国際経済の動向と課題	国際経済のしくみ 国際経済体制の変化 経済のグローバル化と金融危機	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の課題を基に具体的な主題を設定し、その主題解決を論拠をもって表現する。	6	ワークシート 小テスト 発表の様子
3	11 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		・個人を起点として、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。	4	ワークシート 発表の様子

計64時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに定期考査・課題考査・小テストを行う。
- ・長期休業時に課題・ワークシートを提出(別途指示)。
- ・主題を設定したレポート作成・発表を行う。

8 担当者からの一言

現代社会を構成する一員として、地域社会や世界の人々と共生する上で必要な考え方を身につけて、互いに尊重し合う社会をつくる力を養う授業です。現代社会で起こっている事柄やそのしくみ、先人たちの思想などの題材を広く把握し、それについて自分なりの考えを持ち、他者の意見を聞き、よりよい社会やよりよく生きる人間のあり方をさらに深く思考し、それを表現することが求められます。古代ギリシアの哲学者アリストテレスは「人間は社会的動物である」といいます。人は一人では生きていません。「共に生きる」ためのしくみ、規則、考え方などを自分ごととして考えましょう。
(担当：高橋陽子)

教科(科目)	数学(数学Ⅱ)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	新編 数学Ⅱ (数研出版)				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ+B(数研出版)、NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B(東京書籍)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>(1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。</p> <p>(2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。</p> <p>(3) 数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。</p>

3 指導の重点

<p>式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分法と積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。</p>	<p>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。</p>	<p>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
4	式と証明	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式	18	課題考査	
5		第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明			中間考査
6	複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解	15	期末考査	
7		3 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式			
8	図形と方程式	第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	29	課題考査	
9		第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円			中間考査
10		第3節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域			
11	三角関数	第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数とグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式、不等式	21	期末考査	
12		第2節 加法定理 6 加法定理 7 加法定理の応用			

1	指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	19	課題考査
2	微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 ※文系と理系は同等の内容を扱うが、理系においては発展的な内容を追加する。	26	期末考査

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の 3 T R I A L 問題を解く。
 週末 週末課題で指定された LEGEND の問題を解く。さらに、その週に学習した内容の 3 T R I A L で大切なところや解けなかったところをもう一度 (2 回目) 解いてみる。
 数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当: 齋藤 貴嗣)

教科(科目)	数学 (数学B)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	新編 数学B (数研出版)				
副教材等	3TRIAL 数学II + B (数研出版)、NEW ACTION LEGEND 数学II + B (東京書籍)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>(1) 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。</p> <p>(2) 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。</p> <p>(3) 数学の良さを認識するとともに、それらを積極的に活用し、事象を数学的論拠に基づいて判断できる。</p>

3 指導の重点

<p>数列及び統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。</p>	<p>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。</p>	<p>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</p>

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	数列	第1節 等差数列と等比数列	18	課題考査
		1 数列と一般項		
		2 等差数列		
5		3 等差数列の和		
		4 等比数列 5 等比数列の和	10	中間考査
6		第2節 いろいろな数列		
		6 和の記号 Σ 7 階差数列		
7		8 いろいろな数列な和	4	課題考査
8		第3節 漸化式と数学的帰納法		
9	9 漸化式 10 数学的帰納法			
10	統計的な推測	第1節 確率分布	18	中間考査
		1 確率変数と確率分布		
		2 確率変数の期待値と分散		
11		3 確率変数の和と積		
		4 二項分布		
12		5 正規分布	14	課題考査
1		第2節 統計的な推測		
		6 母集団と標本		
		7 標本平均の分布		
2	8 推定	14	期末考査	
3	9 仮説検定			

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

平日 授業の時に解けなかった問題を解き、次にその日に学習した授業範囲の 3 T R I A L 問題を解く。
 週末 週末課題で指定された LEGEND の問題を解く。さらに、その週に学習した内容の 3 T R I A L で大切なところや解けなかったところをもう一度 (2 回目) 解いてみる。
 数学は復習が最も重要である。問題を一定期間おいて何度も解き、解法を習得することが必要である。

8 担当者からの一言

授業内容は極力その日のうちに理解するように心がけてください。わからないことがある場合は授業中に質問するか、休み時間や放課後を使って遠慮なく先生方へ質問してください。そして、何より大切なことはわからないところを自分で時間をかけてしっかり考えることです。

(担当：齋藤 貴嗣)

教科(科目)	理科(物理)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	数研出版『物理』				
副教材等	数研出版『リードLight ノート物理』 河合出版『物理のエッセンス 力学・波動』 『物理のエッセンス 熱・電磁気・原子』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

(1) 法則や公式を理解もせず丸暗記するのではなく、導出過程および意味を重視する。

(2) 実験や観察などを通して、物理現象の具体的・体験的理解の場をつくる。

(3) 物事を筋道立てて、論理的に思考する力を伸ばしていく。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。</p>	<p>・物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。</p>	<p>・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	[平面内の運動] 1. 平面運動の速度・加速度	教科書 副教材	速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解させ、慣れさせる。	4	定期考査 小テスト 提出物
5	2. 落体の運動		放物運動における速度ベクトルを水平成分と鉛直成分とに分解し、定量的に理解させる。	8	
6	[剛体] 1. 剛体にはたらく力のつりあい 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	教科書 副教材	剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きその他に作用線の位置により決まることを理解させる。 剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に応じて求められるようにする。また、重心の位置を求め、剛体の傾く条件と転倒する条件を理解させる。	4 4	定期考査 小テスト 提出物
7	[運動量の保存] 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則	教科書 副教材	運動の法則から力積と運動量の関係を導く。 保存則から物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解する。	4 6	定期考査 小テスト 提出物
8	3. 反発係数		反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解させる。	6	
9	[円運動と万有引力] 1. 等速円運動	教科書 副教材	等速円運動における量の定義、およびこれらの中に成り立つ関係を学習させる。	4	定期考査 小テスト 提出物
	2. 慣性力		遠心力は慣性力の一種であることを例題で具体的に把握させる。	4	
10	3. 単振動		等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。	4	
	4. 万有引力		ケプラーの法則と運動方程式とから万有引力の公式が得られることを理解させる	6	
11	[気体のエネルギー] 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化	教科書 副教材	ボイル・シャルルの法則から、理想気体の状態方程式が得られることを示す。 気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。 熱力学第一法則の式を用いて、定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解させる。	3 5 4	定期考査 小テスト 提出物

12	[波の伝わり方] 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方	教科書 副教材	波を表す要素（振幅、周期、振動数、波長そして波の伝わる速さ）について確認させる。 原点での単振動の式をもとにして正弦波の一般式を正しくつくれるようにする。 波面の進み方はホイヘンスの原理によって説明されることを理解する。	3 3 2	定期考査 小テスト 提出物
1	[音の伝わり方] 1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果	教科書 副教材	音波は波としての諸性質を持つことを理解する。 波源と観測者とが相対的に運動しているときには、観測者が受ける振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。	4 6	定期考査 小テスト 提出物
2	[光] 1. 光の性質 2. レンズと鏡	教科書 副教材	光は波としての諸性質を持つことを理解する。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解させる。また、写像公式との関係を理解させる。	4 4	定期考査 小テスト 提出物
3	3. 光の干渉と回折		光学距離の差に注目するし、明線、暗線の式から隣りあう明線（暗線）の間隔を求めることができる。	4	

計96時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・授業は適宜、長期休業中は課題テストを前提とした課題を課す。
- ・考査毎に副教材のリード Light ノート物理の提出を、実験にはレポートの提出を義務づける。

8 担当者からの一言

物理は自然現象に潜む法則を発見し、それを未知の現象の解明に適用していく学問です。17世紀のニュートン以降、物理学は自然への探求活動とともに実験を通して発展し、その成果は科学技術の革新をもたらしました。高校では既に発見された法則をもとにして、力学や電磁気学など、分野ごとに体系づけられた理論について学習していきます。先人たちの知恵を学び、新たな視野を広げていきましょう。

令和6年度シラバス (理科) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科 (化学基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(文系)
使用教科書	東京書籍『化学基礎』				
副教材等	実教出版『アクセスノート化学基礎』 第一学習社『セミナー化学基礎』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ① 物質とその変化についての理解を目指します。
- ② 物質とその変化を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指します。
- ③ それらを的確に表現できることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物や製品が何でできているかを教科書の写真を参考にしながら出し合う。 教科書を参考にしながら、身のまわりの製品には、なぜその物質が使われているかを考え、発表する。 身のまわりの製品には、その物質がうまく利用されていることに気づく。 2種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 それぞれの物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 	2	<p>【態度】身のまわりの物や製品について、友達と話し合いながらそれらはどんな物質できているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【思考】物質の性質をもとに、分離の方法を考えることができる。[記録分析・記述分析]</p> <p>【知技】生活の中には多くの物質があり、化学変化を利用していることを理解している。[発言分析・記述分析]</p>
	2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 純物質と混合物の性質を理解する。 混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 物質の溶解度は温度によって変化することについて理解する。 サインペンの色素はいろいろな物質の混合物であることに気づく。 	2	<p>【知技】混合物から純物質を分離する方法を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】色素を分離する実験について、色素のどのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。[行動観察・記録分析]</p> <p>【態度】色素を分離する実験を行い、色素の吸着力を比較するなど、科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【知技】混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。[発言分析・記述分析]</p>

	2 節 物質の構成元素	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は元素からつくられていることに気づく。 ・物質を構成する元素は、約 120 種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 ・金属の種類によって炎の色が異なることを確認する。 ・炎色反応の色から、水溶液中に含まれる元素を推測する。 ・炎色反応を利用している例として、花火があることを知る。 ・元素の同素体について説明する。 	2	<p>【知技】 炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】 炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。[発言分析・記録分析]</p> <p>【態度】 炎色反応についての実験を行い、元素の種類を推測するなど科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【知技】 元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。[発言分析・記述分析]</p>
	3 節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって物質の体積がどのように変化するか確認し、粒子のふるまいと関係について考察する。 ・物質が自然に広がっていく現象を拡散ということ、また、その現象は熱運動によることを理解する。 ・物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 ・化学が日常生活に役立っている例を知る。 	1	<p>【知技】 状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】 実験の過程を注意深く観察し、状態変化に伴う変化を捉えようとしている。また粒運動と物質の三態変化を探究し、これらの関係性を見だして表現している。[行動観察・記録分析]</p> <p>【態度】 この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 1 節 原子の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療など使われていることを知る。 	2	<p>【知技】 原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】 放射性同位体同位体について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
	2 節 電子配置	<ul style="list-style-type: none"> ・原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。 	2	<p>【知技】 原子番号 1～20 までの代表的な典型元素の電子配置について理解している。[発言分析・記述分析]</p>

	<p>3 節 元素の周期表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の周期律について確認する。元素の性質の規則性について考察する。 ・周期表が形成されていく歴史を調べ、結果を考察し発表する。 	1	<p>【知技】元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期都の関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】元素の周期律について規則性を見いだして表現している。元素の性質について考察する。[発言分析・記録分析]</p> <p>【態度】周期表の歴史について調査し、科学的に考察し発表しようとしている。</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
1 学期中間考査				
	<p>2 章 化学結合 1 節 イオンとイオン結合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオンの価数だけでなく、単原子イオン、多原子イオンの分類を知る。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書 p. 43 図 11 などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・同じ電子配置をもつイオンどうしのイオン半径を比較して考える。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を調べて発表する。 	4	<p>【知技】イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見だし表現できる。[発言分析・記述分析・行動観察]</p>
6	<p>2 節 分子と共有結合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・身近な高分子化合物の構造について知る。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 	4	<p>【知技】共有結合を電子配置と関連付けて理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】分子からなる物質の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】物質の極性と溶解性の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。[記述分析・行動観察]</p> <p>【態度】分子の模型を組み立てる実験を行い、共通性などを化学的に見出そうとしている。[発言分析・記録分析]</p>
	<p>3 節 金属と金属結合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。 ・身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 	2	<p>【知技】金属の性質及び金属結合を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】金属とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>

	4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・結合の種類から物質の大きな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 	2	<p>【思考】化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。</p> <p>[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
1 学期期末考查				
7	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量	<ul style="list-style-type: none"> ・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量, 分子量, 式量のそれぞれが表す値を理解する。 	2	<p>【知技】相対質量と原子量について理解している。[発言分析・記述分析]</p>
	2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> ・粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 ・物質質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量, 空気平均分子量について理解する。 ・物質質量を中心とした量的関係を理解する。 ・実験観察を通して, 1molの気体の体積について考察する。 	2	<p>【知技】物質質量と粒子, 質量, 気体の体積の関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】物質質量と粒子, 質量, 気体の体積について, 友達と話し合いながら見通しをもって観察を行い, 得られた結果を分析した活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p>
8	3節 溶液の濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 	2	<p>【知技】モル濃度について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】水溶液の調整について, 友達と話し合いながら確認し, 誤ったガラス器具の使い方で行われる現象についての問題を見いだす活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p>
9	4節 化学反応の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 	2	<p>【知技】化学反応式やイオン反応式について理解している。[発言分析・記述分析]</p>

	5節 化学反応式の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・炭酸カルシウムと塩酸の実験から、反応に関わる物質量の比が化学反応式の係数の比を表していることを見いだして理解する。化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 	2	<p>【知技】化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【態度】化学反応における量的関係についての実験を行い、化学反応式の係数が物質量の比を表していることを見出そうとしている。[記録分析・行動観察]</p> <p>【思考】実験結果から反応物と生成物の比を求めさせ、化学反応式の係数の比と比較させることを通して、物質量の比が化学反応式の比を表していることを見いだした活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
2学期中間考査				
10	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の性質について理解する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 	3	<p>【知技】酸と塩基の性質及び定義を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。[発言分析・記述分析・行動観察]</p>
	2節 水素イオン濃度とpH	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。 	3	<p>【知技】水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】pH指示薬について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】身近のまわりの物質のpHを測定し、友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
	3節 中和反応と塩の生成	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるもとなった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 	4	<p>【知技】酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】身近のまわりの物質のpHを測定し、様々な比較を加えて考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>

11	4節 中和反応	<ul style="list-style-type: none"> ・中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質と塩基から生じる OH^- の物質が等しくなることだと理解する。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。 b 	4	<p>【知技】中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。[発言・記述・行動]</p> <p>【態度】中和滴定の実験を行い、濃度を正確に調べるために、正しく器具を使い、科学的に考察をしようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身につけたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
2 学期期末考査				
12	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 	3	<p>【知技】酸化と還元が電子の授受によることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p>
1	2節 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・実験観察を通して酸化剤としてはたらく物質は、より強い酸化剤との反応では還元剤となることを知る。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。 	3	<p>【知技】酸化還元反応式の反応式について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】オキシドールの濃度を調べる実験を行い、それぞれの結果を科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
	3節 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 	3	<p>【知技】金属のイオン化傾向について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。[行動観察・記録分析]</p>
2	4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 	3	<p>【知技】電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・記述分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身につけたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>

学年末考查			
3	終章 化学が 拓く世界	・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を 支えている科学技術と結びついていることを理解す る。	4 【知識】学んできた事柄が日常生活や社会を支 えている科学技術と結びついていることを理 解する [発言分析・行動観察] 【思考】日常生活や社会を支えている科学技術 について、友達と話し合い、その用途や社会課 題に対する解決策などを様々な視点で考察し ている。 [発言分析・行動観察] 【態度】この章で身についたことを友達と共有 する。学習内容到達度について自己評価する。 日常生活や社会と化学が繋がった部分をま とめる [発言分析・記録分析]

計 64 時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・单元ごとに課題の提出 および 確認テストを行います。
- ・定期考查ごとに アクセスノート化学基礎 の取組を点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

ここでは、学習の方法について考えてみましょう。

『化学基礎』は、前出の内容を踏まえて更に発展させていくという構成になっているので、復習が重要になります。授業においても、前出の内容がしっかり理解できているという前提で授業が展開されるので、家庭学習においてはしっかりとした復習が必要になってきます。

復習は、授業で伝えられた化学的法則をいろいろなケースに当てはめ理解を深めることです。したがって、家庭学習ではドリルや問題集を授業の進度に合わせながら、その都度学習していくことが必要です。

機械的に記憶するという力も必要な場面がありますが、自然界の法則や理論を考える学問なので、授業では伝えられた法則や規則を考えながら聞き、応用できることが重要になります。

また、中学校で学習する内容に比べると、飛躍的に定量的な内容が多くなります。四則計算を素早く正確に行う力も必要となり、これはトレーニングで鍛えることができます。

教科(科目)	理科 (化学基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	東京書籍『化学基礎』				
副教材等	実教出版『アクセスノート化学基礎』 第一学習社『セミナー化学基礎+化学』				

1 学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- ④ 物質とその変化についての理解を目指します。
- ⑤ 物質とその変化を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指します。
- ⑥ それらを的確に表現できることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物や製品が何でできているかを教科書の写真を参考にしながら出し合う。 教科書を参考にしながら、身のまわりの製品には、なぜその物質が使われているかを考え、発表する。 身のまわりの製品には、その物質がうまく利用されていることに気づく。 2種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 それぞれの物質には性質があり、私たちはそれを利用して生活していることを理解する。 	2	<p>【態度】身のまわりの物や製品について、友達と話し合いながらそれらはどんな物質できているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【思考】物質の性質をもとに、分離の方法を考えることができる。[記録分析・記述分析]</p> <p>【知技】生活の中には多くの物質があり、化学変化を利用していることを理解している。[発言分析・記述分析]</p>
	2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 純物質と混合物の性質を理解する。 混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 物質の溶解度は温度によって変化することについて理解する。 サインペンの色素はいろいろな物質の混合物であることに気づく。 	2	<p>【知技】混合物から純物質を分離する方法を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】色素を分離する実験について、色素のどのような性質によって分離されたかを科学的に考察している。[行動観察・記録分析]</p> <p>【態度】色素を分離する実験を行い、色素の吸着力を比較するなど、科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【知技】混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を理解している。[発言分析・記述分析]</p>
	2節 物質の構成元素	<ul style="list-style-type: none"> 物質は元素からつくられていることに気づく。 物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、同素体があることを知る。 元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 金属の種類によって炎の色が異なることを確認する。 炎色反応の色から、水溶液中に含まれる元素を推測する。 炎色反応を利用している例として、花火があることを知る。 元素の同素体について説明する。 	2	<p>【知技】炎色反応や沈殿の生成で、元素の種類を確認できることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】炎色反応の色から水溶液に含まれる元素を科学的に考察している。[発言分析・記録分析]</p> <p>【態度】炎色反応についての実験を行い、元素の種類を推測するなど科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【知技】元素の同素体について、違いについて科学的に説明できる。[発言分析・記述分析]</p>
	3節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> 物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 状態変化によって物質の体積がどのように変化するか確認し、粒子のふるまいと関係について考察する。 物質が自然に広がっていく現象を拡散ということ、また、その現象は熱運動によることを理解する。 物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。 化学が日常生活に役立っている例を知る。 	1	<p>【知技】状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】実験の過程を注意深く観察し、状態変化に伴う変化を捉えようとしている。また粒運動と物質の三態変化を探究し、これらの関係性を見いだして表現している。[行動観察・記録分析]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>

<p>2編 物質の構成</p> <p>1章 原子の構造と元素の周期表</p> <p>1節 原子の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療など使われていることを知る。 	2	<p>【知技】原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】放射性同位体同位体について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
<p>2節 電子配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。 	2	<p>【知技】原子番号1～20までの代表的な典型元素の電子配置について理解している。[発言分析・記述分析]</p>
<p>3節 元素の周期表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の周期律について確認する。元素の性質の規則性について考察する。 ・周期表が形成されていく歴史を調べ、結果を考察し発表する。 	1	<p>【知技】元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期都の関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】元素の周期律について規則性を見いだして表現している。元素の性質について考察する。[発言分析・記録分析]</p> <p>【態度】周期表の歴史について調査し、科学的に考察し発表しようとしている。</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学が繋がった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
<p>2章 化学結合</p> <p>1節 イオンとイオン結合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオンの価数だけでなく、単原子イオン、多原子イオンの分類を知る。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書 p. 43 図 11 などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・同じ電子配置をもつイオンどうしのイオン半径を比較して考える。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を調べて発表する。 	4	<p>【知技】イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】イオン結合およびイオン結合でできた物質の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】元素の周期律とイオン化エネルギーの関係性を見だし表現できる。[発言分析・記述分析・行動観察]</p>

5	2節 分子と共有結合	<ul style="list-style-type: none"> 分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 身近な高分子化合物の構造について知る。 配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。 分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 分子の性質と溶解性の違いを確認する。 分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 	4	<p>【知技】共有結合を電子配置と関連付けて理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】分子からなる物質の性質を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】物質の極性と溶解性の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。[記述分析・行動観察]</p> <p>【態度】分子の模型を組み立てる実験を行い、共通性などを化学的に見出そうとしている。[発言分析・記録分析]</p>
	3節 金属と金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 金属の性質について理解する。 身近に使われている金属および合金の成分、それらの用途や性質を調べて発表する。 	2	<p>【知技】金属の性質及び金属結合を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】金属とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
	4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> 結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 	2	<p>【思考】化学結合と物質の分類について、友達と話し合いながら規則性や関係性を解釈して表現しようという視点で考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学が繋がった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
1 学期中間考查				
	3編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量	<ul style="list-style-type: none"> 原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 	2	<p>【知技】相対質量と原子量について理解している。[発言分析・記述分析]</p>
	2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 物質質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 物質質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 物質質量を中心とした量的関係を理解する。 実験観察を通して、1molの気体の体積について考察する。 	2	<p>【知技】物質質量と粒子、質量、気体の体積の関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】物質質量と粒子、質量、気体の体積について、友達と話し合いながら見通しをもって観察を行い、得られた結果を分析した活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p>

	3節 溶液の濃度	<ul style="list-style-type: none"> ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 	2	<p>【知技】モル濃度について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】水溶液の調整について、友達と話し合いながら確認し、誤ったガラス器具の使い方で行っている。[発言分析・行動観察]</p>
	4節 化学反応の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 	2	<p>【知技】化学反応式やイオン反応式について理解している。[発言分析・記述分析]</p>
6	5節 化学反応式の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・炭酸カルシウムと塩酸の実験から、反応に関わる物質の比が化学反応式の係数の比を表していることを見いだして理解する。化学反応の表す量的関係について発表する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 	2	<p>【知技】化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【態度】化学反応における量的関係についての実験を行い、化学反応式の係数が物質の比を表していることを見出そうとしている。[記録分析・行動観察]</p> <p>【思考】実験結果から反応物と生成物の比を求めさせ、化学反応式の係数の比と比較させることを通して、物質の比が化学反応式の比を表していることを見いだした活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の性質について理解する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 	3	<p>【知技】酸と塩基の性質及び定義を理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸と塩基の強弱と電離度の関係性を予想し、実験などを通じて関係性を見だし表現できる。[発言分析・記述分析・行動観察]</p>
	2節 水素イオン濃度とpH	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。 	3	<p>【知技】水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度やpHで表せることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【知技】pH指示薬について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】身近のまわりの物質のpHを測定し、友達と話し合いながら様々な比較を加えて考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
1 学期期末考査				
7	3節 中和反応と塩の生成	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 	4	<p>【知技】酸と塩基が完全に中和するときの化学反応式及び塩の水溶液について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】身近のまわりの物質のpHを測定し、様々な比較を加えて考えようとしている。[発言分析・行動観察]</p>

8	4節 中和反応	<ul style="list-style-type: none"> ・中和の条件は、酸から生じる H⁺の物質と塩基から生じる OH⁻の物質が等しくなることだと理解する。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。 b 	4	<p>【知技】中和反応に関与する物質の量的関係について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】器具の扱い方や溶液の調製方法など中和滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。[発言・記述・行動]</p> <p>【態度】中和滴定の実験を行い、濃度を正確に調べるために、正しく器具を使い、科学的に考察をしようとしている。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身につけたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
9	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 	3	<p>【知技】酸化と還元が電子の授受によることを理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。[発言分析・行動観察]</p>
	2節 酸化剤と還元剤	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・実験観察を通して酸化剤としてはたらく物質は、より強い酸化剤との反応では還元剤となることを知る。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。 	3	<p>【知技】酸化還元反応式の反応式について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析し解釈することができる。[発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】オキシドールの濃度を調べる実験を行い、それぞれの結果を科学的に考察しようとしている。[発言分析・行動観察]</p>
	3節 金属の酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 	3	<p>【知技】金属のイオン化傾向について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。[行動観察・記録分析]</p>
	4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 	3	<p>【知技】電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。[発言分析・記述分析]</p> <p>【思考】電池について構造とその用途について、友達と話し合いながらそれらは身のまわりでどのように使われているという視点で考えようとしている。[発言分析・記述分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身につけたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>

	終章 化学が拓く世界	・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	4	<p>【知識】学んできた事柄が日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する [発言分析・行動観察]</p> <p>【思考】日常生活や社会を支えている科学技術について、友達と話し合い、その用途や社会課題に対する解決策などを様々な視点で考察している。 [発言分析・行動観察]</p> <p>【態度】この章で身についたことを友達と共有する。学習内容到達度について自己評価する。日常生活や社会と化学がつながった部分をまとめる [発言分析・記録分析]</p>
2 学期中間考査				

計 64 時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに課題の提出 および 確認テストを行います。
- ・ 定期考査ごとに アクセスノート化学基礎 の取組を点検します。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

ここでは、学習の方法について考えてみましょう。

『化学基礎』は、前出の内容を踏まえて更に発展させていくという構成になっているので、復習が重要になります。授業においても、前出の内容がしっかり理解できているという前提で授業が展開されるので、家庭学習においてはしっかりと復習が必要になってきます。

復習は、授業で伝えられた化学的法則をいろいろなケースに当てはめ理解を深めることです。したがって、家庭学習ではドリルや問題集を授業の進度に合わせながら、その都度学習していくことが必要です。

機械的に記憶するという力が必要な場面がありますが、自然界の法則や理論を考える学問なので、授業では伝えられた法則や規則を考えながら聞き、応用できることが重要になります。

また、中学校で学習する内容に比べると、飛躍的に定量的な内容が多くなります。四則計算を素早く正確に行う力も必要となり、これはトレーニングで鍛えることができます。

令和6年度シラバス (理科) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科 (化学)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	東京書籍『化学 vol.1 (理論編)』『化学 vol.2 (物質編)』				
副教材等	実教出版『アクセスノート化学』 第一学習社『セミナー化学基礎+化学』				

1 学習目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>① 化学の基本的な概念や原理・法則についての理解を目指します。</p> <p>② 化学の基本的な概念や原理・法則を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得を目指します。</p> <p>③ それらを的確に表現できることを目指します。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

5 学習計画

月	単元名と領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
10	0編 人間生活の中の化学	<ul style="list-style-type: none"> ・p.6~8の写真を使って、信号機、道路、ビル、バス、ヒト、タブレット端末、洋服を例にそれぞれどのような物質が使われているかを意見交換する。 ・それぞれの物質が、どのような性質や特徴があるのかなどを考える。 ・班での発表などを通して、社会の中で化学が果たす役割を考える。 	1	<p>中学校や化学基礎での学習を参考に、日常生活の中の物質について考えようとしている。(態)</p> <p>中学校や化学基礎の知識を元に、性質や特徴を理解している。(知)</p> <p>社会の中で化学が果たす役割について、自分なりの意見を踏まえて表現している。(思)</p>
	1編 物質の状態 1章 物質の状態 1節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・固体、液体、気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいを考える。 ・融解(融点・融解熱)、凝固(凝固点・凝固熱)、蒸発(沸点・蒸発熱)、凝縮(凝縮熱)、粒子の熱運動、拡散について理解する。 ・物質の融点、沸点は、化学結合や分子間力の種類と関係し、粒子間に働く引力が大きいくほど高くなることを考える。 	3	<p>固体、液体、気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいを説明しようとしている。(態)</p> <p>融解、凝固、蒸発、凝縮を粒子の熱運動と拡散から説明できることを理解している。(知)</p> <p>物質の融点、沸点を粒子間に働く引力と関連付けて考えることができる。(思)</p>
	2節 気体・液体間の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・気液間の平衡について、状態変化を用いて考える。 ・沸騰について理解する。 ・蒸気圧と蒸気圧曲線について理解する。 ・実験1 圧力を下げた状態での水の沸騰を確認しようを行い、フラスコ内の現象について状態変化を元に考える。 ・超臨界状態が身近なところに使われていることを知る。 	3	<p>気液間の平衡や、沸騰について状態変化を用いて説明できる。(知)</p> <p>蒸気圧曲線の見方を理解できる。(知)</p> <p>仮説を立てて、実験の過程を注意深く観察し、それに伴う変化を科学的に考察している。(思)</p> <p>超臨界状態について、友達と話し合いながらどのように使われているかという視点で考えようとしている。(態)</p>
	2章 気体の性質 1節 気体	<ul style="list-style-type: none"> ・熱気球が浮かぶ理由に気づく。 ・ボイルの法則をグラフを使って理解する。 ・シャルルの法則をグラフを使って理解する。 ・ボイルの法則とシャルルの法則からボイル・シャルルの法則が導かれることを理解する。 	3	<p>熱気球が浮かぶ理由を、気体の性質から考えようとしている。(態)</p> <p>ボイルの法則とシャルルの法則を理解している。(知)</p> <p>ボイル・シャルルの法則が、ボイルの法則とシャルルの法則から導かれることを考え、表現できる。(思)</p>

	2節 気体の状態方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・アボガドロの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則に物質量の考え方が導入できないか考える。 ・気体の状態方程式を理解する。 ・気体の状態方程式を、気体の質量とモル質量を用いて変形できる。 ・実験2 気体の分子量を測定しよう を行い、ヘキサンの分子量の求め方を確認する。 ・水上置換による気体の捕集について、捕集気体の分圧の求め方を理解する。 ・理想気体と実在気体の違いについて考える。 ・実在気体を理想気体とみなすことのできる条件を理解する。 	5	<p>アボガドロの法則とボイル・シャルルの法則を結びつけられないか考えようとしている。(態)</p> <p>気体の状態方程式を理解している。(知)</p> <p>気体の状態方程式を、気体の質量とモル質量を用いて変形できる。(思)</p> <p>分子量測定の実験を行い、科学的に探究しようとしている。(態)</p> <p>水上置換の気体は水蒸気との混合気体であることを理解し、捕集した気体の圧力の求め方を表現できる。(思)</p> <p>理想気体と実在気体の違いを理解している。(知)</p>
11	3章 溶液の性質 1節 溶解	<ul style="list-style-type: none"> ・混ざりやすさについて、極性の有無で考えられることに気づく。 ・飽和溶液について溶解平衡を使って考える。 ・例題1, 2を使って再結晶について説明し、水和水を含む再結晶について考える。 ・質量パーセント濃度、モル濃度の計算方法について、その特徴を元に理解する。 ・質量モル濃度の表し方と利用について理解する。 ・炭酸飲料の栓を抜くと気泡が出てくる理由について知る。 ・減圧症について知る。 	4	<p>溶解のしくみを極性の有無から見いだすことができる。(思)</p> <p>気液間の平衡と同様に、溶解平衡の仕組みについて見いだすことができる。(思)</p> <p>水和水を含む再結晶について考えることができる。(思)</p> <p>質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度について、その計算方法を理解している。(知)</p> <p>炭酸飲料と減圧症を例に、生活の中の気体の溶解について、学習したことを元に考えようとしている。(態)</p>
	2節 希薄溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・純溶媒と不揮発性の物質を溶かした希薄溶液の蒸気圧を比べて、その違いについて理解する。 ・蒸気圧降下から沸点上昇を考える。 ・溶液と純溶媒の凝固点の違いについて考える。 ・実験3 凝固点降下の大きさを調べよう を行い、溶液の凝固点降下が濃度とどのような関係になるかを調べ、まとめる。 ・寒剤の仕組みについて知る。 ・海水の淡水化を例に逆浸透という方法があることを知る。 ・ファントホッフの法則を確認し、浸透圧から分子量の求め方について理解する。 	4	<p>蒸気圧について理解し、溶液の場合、蒸気圧降下が起こることを説明できる。(知)</p> <p>蒸気圧降下から沸点上昇を説明し、凝固点降下についても仮説を立てて考えることができる。(思)</p> <p>凝固点降下についての実験を行い、溶液の凝固点降下と濃度の関係を見いだしている。(思)</p> <p>寒剤の仕組みと逆浸透について理解しまとめる。(態)</p> <p>ファントホッフの法則から分子量を求める方法を理解している。(知)</p>
	3節 コロイド	<ul style="list-style-type: none"> ・コロイド粒子について理解し、真の溶液とコロイド溶液の違いについて理解する。 ・コロイド溶液の様々な性質を考える。 ・コロイド溶液の性質について、実験を元に確かめ、その現象について考える。 ・疎水コロイドと凝析の現象について理解する。 ・親水コロイドと塩析、保護コロイドについて理解する。 	3	<p>コロイド粒子について、その性質を理解している。(知)</p> <p>コロイド溶液の実験を元に、その性質と現象について考察している。(思)</p> <p>疎水コロイドと親水コロイド、保護コロイドについてそれぞれの性質をまとめ、科学的に理解しようとしている。(態)</p>

	4章 固体の構造 1節 結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・結晶の種類について確認し、物質名を挙げてその特徴を確認する。 ・単位格子と配位数について理解する。 	1	<p>結晶の種類についてその特徴とともに説明しようとしている。(態)</p> <p>単位格子と配位数について理解している。(知)</p>
	2節 金属結晶の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・面心立方格子, 六方最密構造, 体心立方格子についてその配列, 配位数, 充填率について理解する。 ・面心立方格子と六方最密構造についてそのモデルを作り, 同じところと違うところに気づく。 ・単位格子の一边の長さとの原子半径の関係について考える。 	3	<p>金属結晶の構造について, それぞれの配列, 配位数, 充填率について理解している。(知)</p> <p>面心立方格子と六方最密構造モデルを作り, その特徴について理解しようとしている。(態)</p> <p>単位格子の一边の長さとの原子半径の関係について, 数学的に考えている。(思)</p>
	3節 イオン結晶の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・金属結晶とイオン結晶の粒子の違いについて確認し, その構造について考える。 ・単位格子に含まれるイオンの数と, イオン結晶の配位数について, その構造とともに理解する。 ・イオン半径と結晶の安定性について確認する。 	2	<p>金属結晶とイオン結晶の違いについて構成粒子から考えようとしている。(態)</p> <p>イオン結晶の単位格子に含まれるイオンの数と配位数について理解している。(知)</p> <p>イオン半径と結晶の安定性について科学的に考えている。(思)</p>
	4節 分子結晶と共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・分子結晶や共有結合の結晶について, 金属結晶やイオン結晶との違いを考える。 ・ダイヤモンド, 黒鉛, 二酸化ケイ素の構造を確認する。 ・ダイヤモンドの結晶の単位格子と密度について理解する。 ・ダイヤモンドの結晶の充填率について理解する。 	1	<p>分子結晶や共有結合の結晶について, 金属結晶やイオン結晶との違いを考えている。(思)</p> <p>共有結合の結晶の例としてダイヤモンドの単位格子と密度, 充填率について理解している。(知)</p>
2 学期期末考査				
12	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1節 反応とエンタルピー変化	<ul style="list-style-type: none"> ・反応エンタルピー ΔH と反応エンタルピーの符号について理解する。 ・状態変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。 ・反応エンタルピーの種類について理解する。 ・反応に関係する各物質の生成エンタルピーの値から, その反応の反応エンタルピーを求めることができる。 ・エントロピーについて理解する。 	4	<p>反応エンタルピーとその符号について表し方を説明できる。(知)</p> <p>反応エンタルピーの表し方をもとに, 状態変化について表すことができる。(思)</p> <p>反応エンタルピーの種類を説明できる。(知)</p> <p>生成エンタルピーの値から反応エンタルピーの求め方を考えることができる。(思)</p> <p>エントロピーとエンタルピーの違いを理解しようとしている。(態)</p>
	2節 ヘスの法則	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘスの法則 (総熱量保存の法則) について理解する。 ・実際に測定することが難しい反応の反応エンタルピーを求めることができる。 ・結合エンタルピーとは, 気体分子内の共有結合を切るのに必要なエネルギーであることを理解する。 ・ヘスの法則から, 結合エンタルピーを用いて反応エンタルピーを求めることができる。 ・実験4 ヘスの法則を検証しよう を行い, ヘスの法則が成り立つか検討する。 	3	<p>ヘスの法則を説明できる。(知)</p> <p>ヘスの法則を利用して実測の難しい反応エンタルピーを求める方法を考えることができる。(思)</p> <p>結合エンタルピーについて説明できる。(知)</p> <p>ヘスの法則を利用して, 結合エンタルピーから反応エンタルピーを求める方法について考えることができる。(思)</p> <p>ヘスの法則についての実験を行い, 化学的に探究しようとしている。(態)</p>

	3節 光とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・光が波であることを確認し、光子のもつエネルギーとその光の波長の関係を理解する。 ・光の放出と吸収について理解する。 ・実験5 ルミノールの化学発光を観察しよう を行い、その変化と利用について考察する。 	1	<p>光が波であることを理解している。(知)</p> <p>化学発光について例を挙げて説明できる。(知)</p> <p>ルミノール反応についての実験を行い、身の回りでどのように活用されているか、友達と話し合っている。(態)</p>
1	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 1節 反応の速さ	<ul style="list-style-type: none"> ・反応速度 v の表し方を理解する。 ・濃度と反応速度の関係について説明できる。 ・実験8 反応速度を求めよう を行い、過酸化水素の分解速度を求めることで理解を深め、反応速度と濃度の関係について考察する。 	3	<p>反応物、生成物それぞれの反応の速さの表し方を理解している。(知)</p> <p>反応物の分解速度と生成物の生成速度の正しい表し方を見いだしている。(思)</p> <p>反応速度に関する実験を行うことで、分解速度を計算し、反応速度と濃度の関係を科学的に探究しようとしている。(態)</p>
	2節 反応速度を変える条件	<ul style="list-style-type: none"> ・濃度による反応速度の違いを理解し、反応速度式の表し方を実験によって求めることができることを知る。 ・温度による反応速度の違いを理解する。 ・触媒による反応速度の違いを理解する。 ・均一触媒と不均一触媒について確認する。 ・濃度、温度、触媒以外の反応速度の違いについて確認する。 	3	<p>反応速度を変える様々な条件を理解している。(知)</p>
	3節 反応のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・反応速度の表し方を理解する。 ・活性化エネルギーとは何かを説明できる。 ・触媒が化学工業の発展に大きく関わっていることを知る。 	2	<p>反応速度式が実験によって求められることを理解している。(知)</p> <p>活性化エネルギーと化学反応の経路について説明できる。(知)</p> <p>触媒が化学工業の発展に関わった歴史について学習したことを元に考えようとしている。(態)</p>
	2章 化学平衡 1節 可逆反応と化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・可逆反応、不可逆反応、正反応、逆反応について説明できる。 ・平衡状態とはどのような状態なのか、反応速度ということばを使って説明できる。 ・平衡定数 K の表し方を確認し、その値が一定温度で固有の値を取ることを知る。 ・平衡定数と気体の分圧の関係について、気体の状態方程式から説明できる。 	3	<p>可逆反応、不可逆反応などの用語を正しく使って説明できる。(知)</p> <p>平衡状態について、見いだすことができる。(思)</p> <p>平衡定数 K の表し方と使い方を説明できる。(知)</p> <p>気体物質の平衡状態にある場合、気体の状態方程式を変形して、圧平衡定数 K_p と濃度平衡定数 K_c の関係式をつくることができる。(思)</p>

2	2節 平衡の移動	<ul style="list-style-type: none"> ルシャトリエの原理を理解し、説明できる。 平衡状態にある場合、温度一定である成分濃度に変化が生じるとその濃度が減少する方向に平衡が移動し、K が等しくなるように新しい平衡に達することを理解する。 気体混合物が平衡状態にある場合、その圧力変化によって平衡が移動することを説明できる。 平衡状態において、温度変化による平衡の移動を発熱、吸熱という言葉を使って説明できる。 実験9 平衡の移動を確認しよう を行い、平衡の移動と温度の関係を確認する。 ルシャトリエの原理を応用して、ハーバー・ボッシュ法を説明できる。 	3	<p>ルシャトリエの原理を理解している。(知)</p> <p>温度一定で、化学反応が平衡状態にあるとき、ある成分濃度を変化させたときの平衡移動を理解し、その平衡定数は前後で等しくなることを説明できる。(思)</p> <p>圧力変化による平衡移動や、濃度変化における平衡の移動を説明することができる。(知)</p> <p>平衡移動に関する実験を行い、濃度や温度の変化によって化学平衡がどのように移動するか科学的に見いだすことができる。(態)</p> <p>ハーバー・ボッシュ法をルシャトリエの原理を使って圧力と温度の違いから説明できる。(思)</p>
	3章 水溶液中の化学平衡 1節 電離平衡	<ul style="list-style-type: none"> 酸の電離定数について理解する。 塩基の電離定数について、酸の場合を元に説明できる。 酢酸の電離平衡において、酢酸の電離定数 K_a を近似して表すことを理解する。 電離度 α、弱酸の水素イオン濃度について式変形できる。 弱塩基について、弱酸の場合と同じように電離定数の式が得られることを説明できる。 実験10 酢酸の電離定数を調べよう を行い、電離定数 K_a の値が一定であることを確認し、濃度変化と電離度の関係を考える。 水の電離平衡について、平衡定数を考え、水のイオン積について確認する。 水のイオン積の関係式から、pH を求めることができる。 	4	<p>酸の電離定数について、酢酸を例に電離平衡の式を使って説明できる。(知)</p> <p>塩基の電離定数について、アンモニアを例に酸の場合を元に式をつくることができる。(思)</p> <p>弱酸の電離度 α が1よりかなり小さい場合の近似を理解することができる。(知)</p> <p>近似した式を使って、電離度 α、水素イオン濃度を表し、弱塩基についての式変形も同様に説明することができる。(思)</p> <p>弱酸の電離定数に関する実験を行い、電離定数 K_a の値や、濃度変化と電離度の関係を、強酸との違いを元に考えようとしている。(態)</p> <p>水のイオン積から、pH を求めることを理解する。(知)</p>
	2節 塩の水への溶解	<ul style="list-style-type: none"> 正塩の水溶液の性質について確認し、その理由を加水分解という言葉を使って説明できる。 緩衝液の特徴を理解できる。 緩衝作用と滴定曲線について理解することができる。 溶解度積とはなにか、理解することができる。 溶解平衡と金属イオンの分離について、溶解度積ということばを使って説明できる。 溶解平衡と共通イオン効果について理解することができる。 	5	<p>正塩の水溶液の性質を、科学的に説明することができる。(思)</p> <p>緩衝液についてその特徴を説明できる。(知)</p> <p>酢酸水溶液と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応から pH 変化を緩衝作用という言葉を利用して説明できる。(思)</p> <p>溶解度積について、友達に説明できる。(知)</p> <p>溶解度積が沈殿生成に影響していることを理解する。(知)</p>
学年末考査				

6 課題・提出物等

- ・单元ごとに課題の提出 および 確認テストを行います。
- ・定期考査ごとに アクセスノート化学 の取組を点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

必要とされる学力は、正しい知識、深く柔軟な思考力、速く正確な計算力です。結論だけを記憶するのではなく、考察する学習を平素の授業において習慣つけてほしい。

授業への取り組み方は、内容が深く幅広いので、時間割としてはほぼ毎日授業がある。これまでとはギアを入れ替えて、学習の重心を化学に傾けて、自学の時間を設けることが成功への糸口となります。

家庭学習の取り組み方では、「セミナー化学」の基本問題は全て解けることが必須であり、「チェック&演習」の重要問題にも恒常的に触れておきましょう。繰り返しの問題演習が、学力向上につながります。計画性と実行力を大切にしましょう。

令和6年度シラバス (理科) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	理科(生物)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年(理系)
使用教科書	数研出版 『生物』				
副教材等	数研出版『リードLight ノート生物』、第一学習社 新課程二訂版『スクエア最新図説生物』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 指導の重点

- ① 進化の視点を持ち、生命現象についての深い理解を目指します。
- ② 生命現象を科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能の習熟を目指します。
- ③ 上記2つを的確に表現できることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解している。また観察、実験等に関する基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、論理的に考え、分析的、総合的に考察し、科学的に判断することができる。またその結果を的確に表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度を身につけようとしている。また生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通し、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解している。また観察、実験等に関する基本的な技能を身につけている。	生物や生物現象の中に問題を見出し、論理的に考え、分析的、総合的に考察し、科学的に判断することができる。またその結果を的確に表現することができる。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究する態度を身につけようとしている。また生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実験レポート、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表への取り組みの観察 などから評価します。

6 学習計画

月	単元名	領域	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
4 ・ 5	第1章 生物の進化	1. 生命の起源と生物の進化 生物の多様性と共通性、原始地球と有機物の生成、有機物から生物へ、生物の出現とその発展、真核生物の出現と進化	生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。	6	a	提出物 (記述の点検)
		2. 遺伝子の変化と多様性 遺伝子と形質、ゲノムの多様性	生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	3	b c	提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
5	中間考査			1	a, b	
5 ・ 6		3. 遺伝子の組み合わせの変化 減数分裂と受精、染色体と遺伝子、遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。	6	a b c	提出物 (記述の点検) 提出物 (記述の確認) 学習内容をノート・レポートにまとめさせたり、学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		4. 進化のしくみ 進化と突然変異、集団としての進化、実際の生物集団と進化、種分化	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	7		
		5. 生物の系統と進化 生物の分類、生物の系統と系統樹、生物の系統と分類	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。	4		
6	期末考査			1	a, b	

7 ・ 8 ・ 9		6. 人類の系統と進化 人類の祖先, 人類の進化	人類が, 霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として, 直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)
	第2章 細胞と分子	1. 生体物質と細胞 細胞を構成する物質, 原核細胞と真核細胞の構造, 真核細胞の構造と機能, 生体膜の構造	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。	5	b	提出物 (記述の確認)

		2. タンパク質の構造と性質 タンパク質とは, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。	3	C	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		3. 化学反応にかかわるタンパク質 酵素の基本的なはたらき, 酵素のはたらきと反応条件, 酵素反応の調節	酵素の基本的な性質と, 酵素のはたらきについて理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	5		
9	中間考査			1	a, b	
10 ・ 11		4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 膜輸送にかかわるタンパク質, 情報伝達にかかわるタンパク質	生体膜を介した物質輸送と, それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)
					b	提出物 (記述の確認)
	第3章 代謝	1. 代謝とエネルギー 生物とエネルギー, 生体内の化学反応	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり, 反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。	3	c	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。
		2. 呼吸と発酵 呼吸とは, 呼吸の過程, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解	呼吸では, 有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され, ATP が合成されることを理解する。発酵では, 酸素を用いずに有機物が分解され, ATP が合成されることを理解する。	6		
	3. 光合成 光合成とは, 光合成のしくみ, 細菌の光合成	光合成では, 光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され, これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。	5			
11	期末考査			1	a, b	

12 ・ 1 ・ 2	第4章 遺伝情報 の発現と発生	1. DNAの構造と複製 DNAの構造, DNAの複製	DNAについて, 2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。 DNAが正確に複製される詳しいしくみを理解する。	4	a	提出物 (記述の点検)	
					b		提出物 (記述の確認)
		2. 遺伝情報の発現 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い	DNAの遺伝情報を写し取って, RNAが合成されるしくみを理解する。転写されたRNAから, タンパク質が合成されるしくみを理解する。	5			
		3. 遺伝子の発現調節 遺伝子の発現調節, 原核生物の発現調節, 真核生物の発現調節	遺伝子の発現が, 環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において, それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。	5	C	学習内容をノート・レポートにまとめさせたり, 学習内容についてまとめたことを発表させたりする。	
4. 発生と遺伝子発現 発生と遺伝子発現, 動物の配偶子形成と受精, カエルの発生, カエルの発生と遺伝子発現, ショウジョウバエの発生と遺伝子発現	発生の過程で, 遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は, 細胞内の物質のはたらきや, 他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。	8					
2	学年末考査			1	a, b		
2 ・ 3		5. 遺伝子を扱う技術 遺伝子を導入する技術, 遺伝情報を解析する技術, 遺伝子発現を解析する技術, 遺伝子を扱う技術と人間生活	遺伝子を扱うさまざまな技術について, その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が, 私たちの生活に与える影響を理解する。	8			

計 96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査ごとにリードLightノートの取り組みを点検します。
- ・タブレットに配信した課題への取り組みを点検します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

生物には重要用語がたくさん出てきます。用語の暗記はもちろん必要ですが、その内容を自分で説明できることが重要です。また、生命現象は必ず時間とともに変化するものなので、教科書に出てくる図を、時間を追って説明できる力も必要となってきます。さらに数学や化学の知識が必要な内容もあり、幅広い知識を使って考えていくこととなります。

生命現象は観察や実験によって解明されてきました。実験結果の丸暗記ではなく、どのようにして解明されてきたかを考えながら学習していくとさらに深く理解できると思います。
(担当：小林朋子)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識と技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わう。 2 運動について自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決にむけて思考判断する。 3 生涯にわたって継続して運動に親しみ、明るく活力のある生活を営む資質や能力を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・各領域において、運動の特性に触れさせ、その楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。 ・健康や安全についての理解を深め、内容や環境に応じて、適切に取り組むことができるようにする。 ・周囲に配慮し、仲間と協力しながら取り組むことができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 スキルテストやゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組みの状況 提出課題の記述内容 グループ活動での発言や指示の内容 活動における練習の工夫やゲームにおける動き 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況 学習活動への取り組みの状況 振り返りシート

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	体づくり運動	12	集団行動 体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 集合、整列、列の増減、挨拶 学校体操 体ほぐしの運動 体力を高める運動 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
6 7	陸上競技 (男女)	18	長距離走 障害走 投てき	<ul style="list-style-type: none"> 男子 3000m 女子 1500m 男子 100mH 女子 80mH 円盤投げ 	abc	タイム計測 授業の様子 (行動の確認)
	体育理論	6	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツにおける技術と戦術・戦略 ○スポーツにおける技能と体力 ○技能の上達過程と練習の考え方 ○効果的な動きのメカニズム ○体力トレーニング ○運動やスポーツでの危険予知と安全確保 	abc	確認テスト 授業の様子 (行動の確認)

8 9	器械運動 (男子)	15	マット運動 跳び箱運動	<p>○マット運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・ハンドスプリング <p>○跳び箱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び ・台上前転 ・前方倒立回転跳び 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (女子)	8	サッカー	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラッピング ・シュート <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択肢を与える。(増やす) <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
10	球技 (女子)	7	ソフトボール	<p>○個人的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバースロー ・サイドスロー ・キャッチボール ・バッティング <p>○集団的技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートノック・送球練習 <p>○ゲーム</p>	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	器械運動 (女子)	15	マット運動 跳び箱運動	<p>○マット運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前転、後転 ・側転 ・ロンダート ・倒立前転 <p>○跳び箱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開脚跳び ・台上前転 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)

11	球技 (男子)	8	サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 ・基本的なボールの扱い方 ・ドリブル、パス ・トラッピング ・シュート ○集団的技術 ・チャレンジアンドカバー ・クロスからのシュート ・ワンツーパスからのシュート ・ボールを持っている人に 選択肢を与える。(増やす) ○ゲーム 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	卓球	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 ・フォアハンドストローク ・シェークハンド ・ツツキ ・カットサーブ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
12	球技 (男子)	8	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム 	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
1						
2						

3	球技 (女子)	15	バレーボ ール	○個人的技術 ・オーバーハンドパス ・アンダーハンドパス ・スパイク ・ブロック ・サーブ ○集団的技術 ・三段攻撃 ・二段攻撃 ・時間差攻撃 ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (男子)	15	バスケット ボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
	球技 (女子)	8	バスケット ボール	○個人的技術 ・パス ・キャッチ ・ドリブル ・シュート ○集団的技術 ・マンツーマンディフェンス ・ゾーンディフェンス ○ゲーム	abc	スキルテスト 授業の様子 (行動の確認)
		7	バドミン トン	○個人的技術 ・オーバーヘッド ・フォアハンド ・バックハンド ・サーブ ○ストローク ・ハイクリア・ドロップ ・ヘアピン・スマッシュ ・ロブ・プッシュ ○ゲーム ・シングルスゲーム ・ダブルスゲーム		

計96時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

振り返りシート

7 担当者からの一言

- ① 「できない」だけでなく、「できるように励むこと」が評価に大きく関わるため、授業については積極的に活動すること。
- ② 授業はチャイムと同時に開始するので、着替えや活動場所への移動は休み時間内に完了しておくこと。
- ③ 体育の授業は出席してしっかり参加することを前提とする。体調不良の場合や怪我で参加できない場合は、担当者に相談し判断する。見学の際は見学届けの記入をすること。

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	1単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
副教材等	大修館書店 新高等保健体育ノート				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

保健の見方、考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を育てる。

3 指導の重点

- ・健康と日常の生活行動が密接に関連していることを理解させる。
- ・現代社会においては、心の健康を保持増進することが重要であることを理解させる。また、そのために身に付けておくべき知識や方法等について理解させる。
- ・交通安全には個人、環境、車両などの要因が関連していること及び車両を運転するにあたって要求される資質や責任等について理解させる。
- ・日常的な応急手当ての方法、心肺蘇生法及びAEDの活用法について理解させる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康的な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及び健康的な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・学習活動への取り組みの状況 ・筆答試験・提出課題等 などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組みの状況 ・提出課題等 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4 5 6 7	1. 生涯を通じる健康	10	新高等保健体育	1 思春期と健康 2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康 7 高齢社会対応した取り組み 8 働くことと健康 ・個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断し、それらを他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
	1 学期末考査					

8 9 10 11 12	2. 健康を支える 環境づくり 2 学期末考査	13	新高等保 健体育	9 労働災害の防止 10 働く人の健康作り 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対 策 4 環境衛生に関わる活動 5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り 組み 7 保健制度とその活用 ・個人及び社会生活における健康・ 安全について総合的に理解する。 ・課題を発見し、その解決を目指し て総合的に思考し判断し、それら を他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)
1 2 3	学年末考査	9	新高等保 健体育	8 医療制度とその活動 9 医療品の制度とその活用 10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向 けた環境づくり ・個人及び社会生活における健康・ 安全について総合的に理解し技 能を身に付けている。 ・課題を発見し、その解決を目指し て総合的に思考し判断し、それら を他者に伝えることができる。	abc	授業の様子 (行動の確認) 保健ノート 授業プリント (記述の点検)

計 32 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

保健ノート・授業プリント

8 担当者からの一言

- ① 教科書や副教材を中心に各単元とも知識・理解に重点を置き授業を進めるが、実践力・課題解決能力を身につけるため、実習・課題解決学習等も行う場合がある。
- ② ノートをとる際は、ただ板書事項を写すだけでなく、気付いたことや考えたこと、他の人や先生の発言の中から大切なことを記入するなどの工夫をする。
- ③ 疑問をそのままにしてしまうことは、健康にとってとても危険である。進んで質問したり、積極的に調べたりして、解決する努力する。

教科(科目)	外国語(英語コミュニケーションII)	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	PANORAMA English Communication II (大修館)				
副教材等	同教科書 Workbook、 Focus on Listening Basic (エミル出版)、 WORDBOX 英単語・熟語 Essential (美誠社)、Be 総合英語 4th Edition (いっずな書店)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを話し合ったり論理性に注意して伝え合うことができる。</p> <p>(4) 日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p>
--

3 指導の重点

<p>①確かな学力のために、予習→授業→復習を徹底し、平日は学年+1時間、休日は学年+2時間を目指します。</p> <p>②たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指します。</p> <p>③英語は協働作業の機会が多い。ペアの相手、グループのメンバーのおかげで協働学習が成り立つ。活動の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げることを目指します</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

聞く、読む、話す[やり取り・発表]、書くために必要となる語彙や表現を理解している。日常的な話題や社会的な話題についての説明を読み取ったり、情報や考えを理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、相手や状況に応じて伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。	日常的な話題や社会的な話題についての意見や考えを、習得したことを基に活用して多様な表現で伝えようとしている。社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、概要や要点を捉えようとしている。
--	--	---

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・教科書に準拠した初見文の内容の確認 ・レポートやワークシート、などの内容の確認 ・作品制作の表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	L1 自分の行きたい国とその理由についてやり取りする	Lesson 1 World Panoramas	世界の国や地域には、すばらしい風景や文化があることについて理解を深め、それぞれの持つ現代の課題について考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認)
5	L2 日本の文化について調べたことを発表する	Lesson 2 The World of Tea	様々な国のお茶の文化について理解を深め、日本固有の文化や習慣について考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・課題提出(記述の点検) ・発表の様子(行動の確認)
6	L3 目的に合った商品を選ぶために広告の内容を読み取る	Lesson 3 Sleep	睡眠について理解を深め、よい睡眠をとるにはどうすべきかについて考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・課題提出(記述の点検) ・発表の様子(行動の確認)
7	L4 科学に関するニュースを聞いて情報を整理する	Lesson 4 Biomimetics	バイオミメティクスについて理解を深め、自然や生物から人間が何を学べるかについて考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・課題提出(記述の点検) ・発表の様子(行動の確認)
8 ・ 9	L5 ディベートの準備として自分の意見を論理的に書く	Lesson 5 Table for Two	物語の流れを追いながら、2人の登場人物の心情や話の展開を想像する。	16	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認) ・意見文(記述の確認)
10	L6 社会的な話題についての新聞記事を読んで情報を整理する	Lesson 6 Yusra Mardini	ユスラさんの体験やメッセージについての理解を深め、難民問題について考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・課題提出(記述の点検) ・発表の様子(行動の確認)
11	L7 ソーシャルメディアの良い点・悪い点を事例とともに書く	Lesson 7 Social Media and Communication	SNS が人間のコミュニケーションや英語に及ぼす影響について理解を深め、SNS の課題や利点について考える。	12	・ワークシート(記述の確認) ・課題提出(記述の点検) ・発表の様子(行動の確認) ・意見文(記述の確認)

12	L8 未来のロボットについてプレゼンテーションをする	Lesson 8 People and Robots	人間とロボットの関係について理解を深め、両者の関係のあり方について考える。	12	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
1	L9 ディスカッションを聞いて主な論点を整理する	Lesson 9 All about Zoos	動物園の歴史について理解を深め、人間と動物との関係や動物保護についてについて考える	10	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）
2 ・ 3	L10 相手の発言内容（環境保全）に基づき話し合いを深める Supplementary Reading	Lesson 10 No One Is Too Small to Make a Difference	環境保護を訴えるグレッタさんの主張について理解を深め、自分たちに今何ができるかについて考える。	18	・ワークシート（記述の確認） ・課題提出（記述の点検） ・発表の様子（行動の確認）

計128時間(55分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲、長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次は、予習→授業→復習のサイクル、平日は学年＋1時間、休日は学年＋2時間の家庭学習の習慣をつけてください。与えられた課題をただやるだけでなく、自分にそのとき必要なことを必要なだけ身につける時間の確保、やり方の模索、定着するまでの反復、といったすべてを自律して自分に課してください。自分で考えて自分で学習する生徒になってほしいと思います。「英語」は単なる語学ではなく、自分を表現し、自分の世界を広げるための手段です。科目を通して、見聞を深めて視野が広がることを望みます。

(担当：長世)

教科(科目)	外国語 (論理・表現Ⅱ)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	be English Logic and Expression II Clear (いっずな書店)				
副教材等	同教科書 Grammar Book、同教科書 Workbook、 be 総合英語 4th Edition (いっずな書店)、英文法・語法 Engage (いっずな書店)、				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続けようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用し、情報や考えを話し合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができる。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、情報や考えを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p>

3 指導の重点

<p>①確かな学力のために、予習→授業→復習を徹底し、平日は学年+1時間、休日は学年+2時間を目指します。</p> <p>②たくましく生き抜くための力を身につけるために、与えられた課題だけでなく自分から課題を設定し、得意を伸ばし不得意を少しずつ克服することを目指します。</p> <p>③英語は協働作業の機会が多く、ペアの相手、グループのメンバーのおかげで協働学習が成り立ちます。活動の中で色々な意見や考えに触れて視野を広げることを目指します。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、インタビュー、ネゴシエーションといった表現活動は社会に出てからも役立つスキルです。上達するには慣れることです。まずはやってみましょう。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

話す[やり取り・発表]、または書くために必要となる語彙や表現を理解し、目的や場面、状況に応じて理由とともに伝えたりする技能を身につけている。	目的や場面、状況に応じて、情報や考えを理由とともに適切な表現で伝えている。世界の問題を説明するために、諸問題の書かれた説明文を読んで、概要や自分の意見を伝えたり、書いたりしている。	目的や場面、状況に応じて、習得したことを基に活用しようとしている。さまざまな話題について聞いたり読んだりしたことを基に、相手に理解してもらえるように伝えようとしている。
--	--	--

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・作品制作の表現の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・レポートやワークシート、自由英作文、提出物などの内容の確認 ・ポートフォリオの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Lesson 1	Your Interests	<ul style="list-style-type: none"> 趣味やクラブ活動に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 趣味やクラブ活動について話したり、文章を書いたりする。 動詞の時制について学んで理解する。 時や状況に応じて動詞の時制を正しく使う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 課題提出(記述の点検) 発表の様子(行動の確認)
5 : 6	Lesson 2	Your Daily Life	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 日常生活について話したり、文章を書いたりする。 不定詞(名詞用法)・動名詞・名詞節について学んで理解する。 伝えたいことに応じて、不定詞・動名詞・名詞節を正しく使う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
	Lesson 3	Your School Life	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 学校生活について話したり、文章を書いたりする。 助動詞について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、助動詞を正しく使う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
7	Lesson 4	Media Literacy	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ボランティア活動について話したり、文章を書いたりする。 さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 課題提出(記述の点検) 発表の様子(行動の確認)
7	Lesson 5	Helping Others	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ボランティア活動について話したり、文章を書いたりする。 さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 発表の様子(行動の確認)
8	Lesson 6	Introducing Your Town	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住む町や地域についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 自分の住む町や地域について話したり、文章を書いたりする。 関係代名詞・関係副詞について学んで理解する。 関係代名詞・関係副詞を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(記述の確認) 課題提出(記述の点検) 発表の様子(行動の確認)

9	Lesson 7	Languages of the World	<ul style="list-style-type: none"> 世界の言語についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 世界の言語について話したり、文章を書いたりする。 副詞のはたらきについて学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、適切な副詞を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
10	Lesson 8	Imagining the Future	<ul style="list-style-type: none"> 想像についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 想像について話したり、文章を書いたりする。 不定詞（副詞用法）・分詞について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて不定詞・分詞を正しく使う。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
10	Lesson 9	Happiness and Stress	<ul style="list-style-type: none"> 幸福・ストレスについての文章を読んだり聞いたりして理解する。 幸福・ストレスについて話したり、文章を書いたりする。 さまざまな意味を表す副詞節について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて適切な副詞節を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
11	Lesson 10	Comparing Countries	<ul style="list-style-type: none"> 各国のデータ比較についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 各国のデータ比較について話したり、文章を書いたりする。 原級・比較級・最上級を使う比較について学んで理解する。 原級・比較級・最上級を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
11	Lesson 11	Cultural Diversity	<ul style="list-style-type: none"> 文化の多様性についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 文化の多様性について話したり、文章を書いたりする。 仮定法について学んで理解する。 仮定法の表現を用いて文を作る。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
12	Lesson 12	Japanese Customs	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 日本の文化について話したり、文章を書いたりする。 要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・語法について学び理解する。 要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・語法を用いて文を作る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
1	Lesson 13	Population Issues	<ul style="list-style-type: none"> 人口問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 人口問題について話したり、文章を書いたりする。 存在や変化の表現について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、存在や変化、「～がかかる」という表現を正しく用いて文を作る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
2	Lesson 14	Rights and Equality	<ul style="list-style-type: none"> 権利と平等についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 権利と平等について話したり、文章を書いたりする。 使役動詞・知覚動詞について学んで理解する。 伝えたい意味に応じて、使役動詞・知覚動詞を用いて文を作る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）
3	Lesson 15	Think Globally, Act Locally	<ul style="list-style-type: none"> 世界の問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 世界の問題について話したり、文章を書いたりする。 日本語とは違う英語らしい表現について学んで理解する。 無生物主語や受動態を使う表現を用いて文を作る。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（記述の確認） 課題提出（記述の点検） 発表の様子（行動の確認）

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

・毎週末の課題、毎週明けの単語テストの範囲、長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

2年次は家庭学習の習慣をつけてください。「スピーチ、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、インタビュー、ネゴシエーションを通してコミュニケーションの技能や態度を身につけていきましょう。
(担当：長世)

令和6年度シラバス (家庭) 学番50 新潟県立小千谷高等学校

教科(科目)	家庭 (家庭基礎)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年(文系・理系)
使用教科書	実教出版 家基 707 『図説 家庭基礎』				
副教材等	生活学Navi 2024 資料+成分表 (実教出版)、図説家庭基礎 準拠学習ノート (実教出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育みます～</p> <p>①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。</p> <p>②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。</p> <p>③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。</p> <p>④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。</p> <p>②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。</p> <p>③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。</p> <p>④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。</p>

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。 ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 指導の重点

<p>①青年期を起点として自分の生き方を考えさせ、子どもや高齢者などの異なる世代とのかかわり共に生きる力を育成する。</p> <p>②持続可能な社会の構築を目指して健康や環境に配慮しながら自立して生活する能力を育成する。</p> <p>③男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。</p>	<p>・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。</p>	<p>・さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。</p>

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 ・授業中の発言、発表や話し合いへの取り組みの観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や、発表や話し合い、実験、実習への取り組みの観察 ・ワークシート（実験・実習後の感想等含む）、作品、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 自分らしい生き方と家族	1節 生涯発達する人生 3節 青年期を生きる 6節 男女共同参画社会をめざして	・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し自身の将来について思考・判断することができる。 ・固定的性別役割分業や、仕事と生活の調和について理解する。	3	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
5		8節 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 10節 家族にかかわる法律	・家族と家族・家庭に関わる法律について学ぶ。 ・法律と自分のかかわりについて理解し、成年年齢の変更や理由、権利と責任などについて学ぶ。	2	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
6	第2章 子どもにかかわる	1節 子どもの誕生 8節 親になることを考えよう 10節 子どもを守る法律・制度	・子供を生み育てることの意義と人間形成の過程について考える。 ・豊かな人間関係や地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解する。	9	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
	第3章 高齢者にかかわる	1節 高齢社会に生きる 2節 高齢者を知る	・高齢者にかかわることの意義、高齢社会の現状と課題について学習する。	9	・授業の取り組み ・ワークシート
	第4章 社会にかかわる	1節 共い生きるために 2節 社会保障制度	・福祉の考え方を理解する。 ・社会保障制度について理解する。		・実習の取り組み ・定期考査
7	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解し、課題を見つけ、調査研究を行い、発表する。	3	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み
8	第6章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり 8節 持続可能な衣生活をつくる	・人と衣服のかかわりについて、その背景や風土などを考えながら理解する。 ・衣服の機能、衣生活と資源・環境とのかかわり、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・被服製作実習	11	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み ・定期考査
10	第5章 食生活をつくる	1節 私たちの食生活と健康 12節 食の未来と環境への取り組み	・食えることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する ・自分の現在の食生活を振り返り、課題を見つけ、改善にむけて積極的に取り組む。	10	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査

12		13節 食事摂取基準 16節 調理の基本	・健康な生活を営むためにどのような栄養素がどれくらい必要なかを学ぶ。 ・調理の流れ、調理操作を理解し、調理技術を習得する	4	・授業の取り組み ・ワークシート ・実習の取り組み
1	第8章 経済的に自立する	3節 長期的な経済計画を立てる	・さまざまな契約や主体的な消費行動について学習する。	9	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査
2	第9章 消費行動を考える	1節 契約と主体的な消費行動	・消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ。		
3	第7章 住生活をつくる	1節 人と住まいのかかわり 3節 ライフステージと住まいの計画	・住まいの機能や生活様式、住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について学習する。	4	・授業の取り組み ・ワークシート ・定期考査

計 64 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元毎に振り返りシートの記入、学習ノートの提出があります。
- ・実習後のレポート等、タブレットによるデータ提出があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(ホームプロジェクトなど)

8 担当者からの一言

毎時間の積み重ねが大切です。特に実習（作品製作）は遅れることなく取り組みましょう
提出物は意欲的かつ丁寧に取り組み、必ず期限内に提出してください。
家庭科の学習をとおして自身の生活に関心を深め、課題を解決する力、実践力を養ってほしいと思います。